

昨年7月にOPENしたお店があります！



安浦町内海南の住宅地の中に、水曜日、木曜日、金曜日の三日間だけ営業しているお惣菜屋さんがあります。その名は、「-treasure-side dish (トレジャー)」母娘二人三脚で営業しています。店名のトレジャーは、母：森川淑子さんが大切にしている言葉がトレジャー＝宝物であったため、娘：多田瑠璃さんの「お母さんといえばトレジャー」という提案から、今の店名になったそうです。子どもは宝物、店も、食材も、お客様も宝物という想いを持ち、心を込めて営業しています。始めたばかりのころは、森川さんがメインで商品を準備してきましたが、今では多田さんも慣れてきて、安心して任せられると笑顔の森川さん。二人の信頼関係も強くあたたかい二人の雰囲気から、お弁当やお総菜以上に、お店で接客してもらおうと元気をもらえそうです。イベント販売にも参加することがあり、そこではイベント限定のピザ風はるまきを出すことが多いそうです。お店はもちろん、イベントも行ってみてはいかがでしょうか。



店名 -treasure- side dish
住所 広島県呉市安浦町内海南1-6-21
電話 080-6322-7461
営業時間 10:00～15:00
定休日 月・火・土・日

※営業日のお惣菜メニューは前日にInstagramで告知されてます。





まちづくり
情報誌



No.65

発行
令和7年12月10日

安浦町まちづくり協議会 〒737-2516 呉市安浦町中央4丁目3-2(呉市役所安浦市民センター内) 電話:0823-84-2261 (年4回発行)

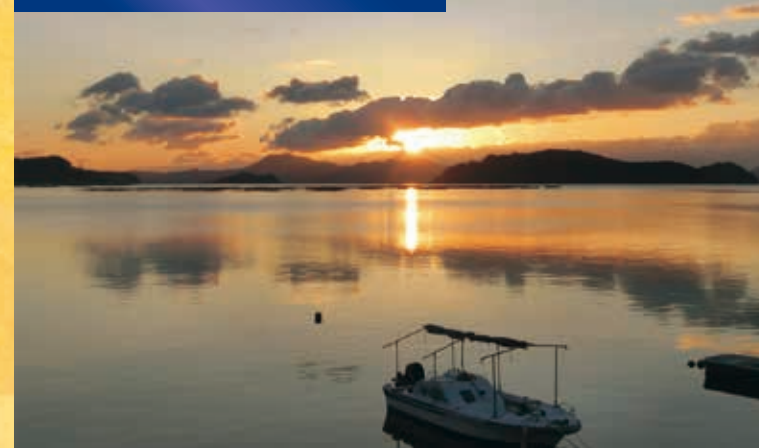
安浦から見る 初日の出スポット

新年には初日の出を見に行つてはどうですか。
 昔からお正月には、歳神様(新しい年に一年の幸をもたらすため家々を訪れる神様)が来られると言われています。

新しい年の初めに日の出とともに歳神様が現れます。
 初日の出を拝むことは、歳神様に感謝と新しい年の幸せと健康を祈る意味があります。
 初日の出を見ながら決意を新たにしたいはいかがでしょうか？

初日の出が堪能できるスポットを紹介します。

実成新開(三津口湾に面した堤防)



日の出近くなると、野呂の山々安浦の町並みに朝日があたりゆっくりと日が差し、とても幻想的な情景です。7時20分前後に島々の間から日が昇ります。車中で待つことができますので、イチオシです。

野呂山(弘法寺)



約800メートルの高さがあり瀬戸内の島々が一望できます。「弘法寺」「星降る展望台」「かぶと岩展望台」「鉢巻展望台」で見ることができます。



ドライブイン桃
(小用入口バス停付近)



安登中央ハイッから
龍王山



善兵衛山
(安登テレビ塔)



西福寺(内海)

やすうら夢工房ブログ

安浦町まちづくり協議会では、ホームページ「やすうら夢工房」を運営しています。その中には、安浦町関連の“おもしろい”や旬の情報を毎日更新しているブログページがあります。今回紹介する記事のクジラに関する出前授業は、広報誌TANTOで紹介したことのある、地域協働総合文化本部代表の峠下さんが、子どもたちのために外部から先生を呼び実施された8月21日の記事です。

ぜひ、ブログを見てみてください。



安浦町
まちづくり協議会
ホームページ



やすうら
夢工房
ブログ



地域協働
総合文化本部
Instagram



やすうら 記憶遺産

第37話

寺迫

— 連載「やすうら記憶遺産」とは？ —

安浦町の風物を描き残した画家・山本譲（1904-1994）の400枚にのぼる絵を通して、明治から昭和に至る安浦町の歴史や記憶を掘り起こし、絵の中の人々の暮らしを後世に伝えていく取組みです。

まちづくり広報誌「TANTO」紙上で2016（平成28）年No.28／9月号から連載を始め、今回で37回目のお話となります。

安浦町内海の寺迫（てらさこ）は、山すそが海へと落ち込む小さな谷あいにはひらけた集落です。段々の田によって斜面地は開かれ、谷の奥には西福寺がひっそりと建ち、中世には常広城主・内海氏の菩提寺として広大な寺領をもったと伝えられています。

境内や周辺には中世のものとみられる五輪塔や石塔が点在し、西福寺に伝わる観音菩薩像は広島県の重要文化財に指定されています。

瀬戸内海と内海湾を一望できるこの高みは、海上交通の要衝をおさえる土豪たちの館と寺が置かれた場所でもあり、田の四季のうつろいと沖を行き交う船影が重なり合う静かな土地です。山と海に挟まれた細い谷に寺が迫り立つ地形から、「寺が迫る」、そこから寺迫の名が生まれたとも考えられる、歴史の層の厚い土地です。



やすうら再発見

散策のすすめ

かんじょう

◆ 勘定神社(安登の氏神様)

みょうけん

神様になられた妙見様

J R呉線安登駅から徒歩で約5分の位置にあります。

この社は、古来「妙見社」と言われていましたが明治5年勘定神社と改称されました。これは、明治政府の神仏分離の政策に基づくものです。

その際、旧村内の13の神社が当神に統合され、祭神を天之御中主神と称するようになりました。

伝承によると、周防国（山口県）の大内家と縁のある公卿が大内家滅亡のため、この地まで妙見菩薩様をお守りしてのがれてきました。昔、御旅所があった地（勘定迫）に病気の御主人の治療のため妙見菩薩様（妙見社）をお祀りして住むようになりました。その後、病気が治り元気になられたのを聞いた村の人々は、これは妙見様のおかげとおまいりする人々が増えてきました。その後この小さな祠では、と村の人たちは話し合い現在の中山の地に妙見社を移し、この地を妙見山と呼んで村の産土神としました。明治以降お宮の名前も妙見社でなく、もと小さな祠のあった場所にちなんだ勘定神社と名づけられ、安登の氏神様となっています。旧記によると月待神事を行なったとの記録があります。

現在のお祭りの様式は、明治以降村の人々が話し合って決めました。

境内には、大元八幡神社 招魂社があります。



※産土神…自分が生まれた土地の守り神



2025年に開校したシンギュラリティ高等学校は、「自分の“好き”から未来をつくる」をテーマにした通信制・単位制の高等学校です。生徒一人ひとりが自分の興味や関心を出発点に、探究的に学びを深めています。

学校には、広島市の向洋キャンパスと自然豊かな安浦キャンパスの2つの拠点があります。

安浦キャンパスでは、地域の自然や暮らしにふれながら学ぶ活動を行っています。

ヤギの飼育やヒツジの毛刈り体験、羊毛の糸つむぎ、夏のそうめん流し、LEGOブロックを使ったアクティビティなど、身近な体験を通して生徒たちは学びを広げています。

シンギュラリティ高等学校

～ワクワクする冒険を、ここから～

また、学校独自の「地域創生」に関わる授業では、生徒が自分の「好き」や「得意」を生かしながら、地域の中で一歩を踏み出すきっかけづくりに取り組んでいます。

地域の方々との関わりはまだ始まったばかりですが、これから少しずつ、つながりを広げていきたいと考えています。

現在、月曜日と木曜日には安浦キャンパスへの通学バスも運行しており、生徒たちは安浦の穏やかな環境の中で、未来に向けた学びを重ねています。



安浦キャンパス

〒737-2504
広島県呉市安浦町大字中切330
(旧野路中切小学校)
TEL：0823-27-5025

